

ホームステイ の思い出





ホームステイでの思い出

室蘭西中学校 土山 大洋

「室蘭からノックスビルへ」 10月26日早朝、ワクワクとドキドキを握りしめ、室蘭をあとにしました。「アメリカなんて簡単だろう」という安易な考えがどこかにありました。しかし、実際は驚きの連続でした。まず最初は荷物のことです。トイレに行く際、私は誰にも何も伝えずに荷物を置いたままで行ってしまいました。日本であればよくあることかもしれませんが、海外ではありえないことだと教えられました。目を離れたほんの一瞬の間に盗まれてしまうからです。「ここは日本ではない」という考えを常に持たなければならないのです。入国審査では、本物の銃を持った警備員や鋭い眼光の入国審査官を見て思わず「入国できないかも」なんて考えてしまいました。

アメリカ入国後は首都であるワシントンD.C.を観光しました。一番心に残っているのはリンカーン記念堂です。実際に見るリンカーン大統領の石像はとにかく大きく、偉大さを全身で感じました。空路でノックスビルへ移動し、いよいよホストファミリーとの対面です。事前にメールでやり取りはしていましたが、いざ会うとなると緊張します。「たいようようこそ」ときれいなひらがなで書かれたポスターで迎えてくれたホストファミリーは、とてもフレンドリーですぐに打ち解けることができました。一緒に動物園

を観光し、アメリカらしい超特大のハンバーガーを食べました。お家ではみんなでUNOをしたり、かぼちゃをくり抜いてハロウィン用のランタンを作ったり、家族の一員として迎えていただきました。本場のハロウィンは、イベント的な日本とは違い、大切な文化であると感じました。見るもの、聞くもの、どれも「初めて」ばかりで、毎日があっという間に過ぎていきました。お別れの日、ホストファミリーと再会を約束し、熱いハグを交わしノックスビルを後にしました。この数日の経験を生涯忘れられない宝物にするため、私は広い世界に飛び出して行きたいと思います。



サンスフィアの展望台でホストファミリーと（本人は一番右）



ホームステイでの思い出

室蘭西中学校 米田 ひとみ

私は2週間前からメールでの連絡を初め、慣れない英語を使いながらのメールは緊張しましたが、連絡していくうちに会うのが本当に楽しみになっていました。

ホテルから動物園に向かう途中、緊張がピークにまで達し、「メールではちゃんと話せたけど実際に話せるだろうか」と不安になりましたが、動物園に着いてバスから降りると、

「welcome Hitomi」と書かれた青いボードを持った Warner が私に優しく話しかけてくれました。そして Warner と瞭那と瞭那のホストファミリーの Abigail と一緒に動物園を見ました。そして動物園の中にあるストアで Warner とお揃いの紫色のTシャツを買いました。その後は昼食にマクドナルドに行ったり、ハロウィンの衣装を買ったりして家へ向かいました。

二日目には朝 Warner のお母さんが日本の朝食を作ってくれました。その後は Warner とお揃いのブレスレットを作ったり、一緒にとっても大きいスーパーマーケットに行ったりしました。家に帰ってきたあとは一緒に庭で遊んだりして過ごしたあと、家に瞭那と Abigail が来て一緒にハロウィンのカボチャを作りました。ポットラックパーティーに向かいました。車の中では音楽を流したり、普段友達と何をするのかなどを話し合いました。ポットラックパーティーでご飯を食べた後、室蘭市の生徒とホストファミリーと一緒にバレーボールをしました。そしてこの日初めて Warner のおじいちゃん、おばあちゃんに会い、手作りのブランケットや手編みで「Hitomi」と書かれたクリスマス

の靴下をもらいました。とても可愛くて気に入りました

三日目はシダーブラフ中学校を訪問しました。日本とは違う学校生活を過ごしてみて、新しい発見や経験ができて本当に良かったです。家に帰ると Warner のお母さんがボバティーを作ってくれて一緒に Warner と飲みました。

四日目は朝から瞭那と Abigail とお互いのホストファミリーと一緒にサンスフィアタワーへ行きました。その後ショッピングして、家に帰りハロウィンのコスプレの準備をして、お菓子をもらいに向かいました。みんなでお菓子を袋いっぱいもらった後は Warner とお母さんたちとピザパーティーをして過ごしました。

五日目別れ際お互い涙いっばいでホストファミリーとハグをしました。今回の研修のために沢山準備をしてくれたホストファミリー、Warner！本当にありがとうございました！また会いましょう！みんなが大好きです！



派遣生徒とホストファミリーと
(左から二番目が筆者)



ホームステイの思い出

翔陽中学校 音無 彩月

アメリカへ行く前に何度かホストスチューデントのEllieとメールでやり取りすることがありました。英語での会話はなかなか慣れず、大変でしたが「気にしなくていいよ」と優しく応えてくれて行くのがとても楽しみになりました。待ちに待ったホストファミリーとの対面は動物園で行われました。入口のところで待機しているEllieとEllieの母は、画用紙に「ようこそ さつき」と、慣れない日本語で書いてくれていました。とても嬉しかったし、その一言だけですごく安心感がありました。その後は一緒に動物園内を回って交流を深めたり、お昼ご飯を食べて、待ちに待ったホームステイが遂に始まりました。本場の英会話はすごく難しく、コミュニケーションを取るのも一苦労でした。沢山質問したいけど会話が続かなかったり、通じないことも多々ありました。ですがEllie家族は翻訳を使ったり簡単な文法で話してくれるなど、私が話しやすく聞きやすい機会を作ってくれました。通じないこともたくさんあったけれど、なによりも積極的に話して通じることがとても嬉しかったです。

最終日にはダウンタウンへ行ってサンスフィアに登ったり、買い物をしたりしました。夜にはEllieやEllieの友達と本場のハロウィンを楽しみました。楽しい反面、皆と過ごせる最後の日なんだなと思うと少し寂しい気持ちになりました。

そして翌日、エリー家との別れの日です。家を出る時にエリーの父に感謝の言葉を伝えると、「あなたがいなくなると寂しくなるでしょう」といってくれました。私が緊張している時

も色々な話題を振ってくれたり、そのほかにもたくさんお世話になりました。

空港にて帰国手続きを行い、いざ出発するとなった時、我慢していた涙が一気に込み上げて止まりませんでした。もう二度と会えないのかもしれないと思うと、まだ室蘭には帰らずもっと思い出を作りたい、もっと家族と沢山話したいという気持ちでいっぱいになりました。最後に、「Thank you Ellie. See you again!」と言って空港を後にしました。この4日間、カボチャを彫ったり一緒にゲームを楽しんだり、買い物へ行ったりなど、普段体験できないことをたくさん経験しました。私に沢山のおもてなしをしてくれたEllie家族には本当に感謝しかありません。もしもEllieが室蘭に来てくれたらEllieが私にしてくれた様に、たくさんのおもてなしをしたいと思います。

このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様本当にありがとうございました。



ホストファミリーと（本人は右）



ホームステイの思い出

東明中学校 熊谷 瞭那

私はアメリカに行く二週間ほど前からホストファミリーの Abigail と連絡をほぼ毎日取り合っていました。連絡では翻訳を使っていたし、Abigail の顔も知らなかった所以对面の日はすごく緊張していました。でも、待ち合わせの動物園に入ったときからずっと手を振ってくれてハグもしました。家族はみんな優しい人でとても安心したのを覚えています。夜は室蘭西中学校のひとみさんとひとみさんのホストチューデントの Warner と庭で BBQ をしました。コンロで焼くのではなく、直で焼いていて驚きました。でもとても美味しかったです。二日目の昼は私が Abigail にリクエストした、フライドオクラとバナナプディングを食べました。どちらもとても美味しかったです。その後は Warner の家でひとみさんと4人でジャック・オー・ランタンを作りました。夜に蝋燭をつけるとすごく綺麗でした。夕方、テネシー川沿いの公園で日本人のみんなとそれぞれのホストファミリーが集まり食事をしました。食後は全員でバレーをしました。白熱した試合ができたし、皆との仲が深まって楽しかったです。三日目は Abigail の通っている中学校に行きました。にぎやかに歓迎してくれて私達のパフォーマンスも大成功しました。授業中には welcome と書かれた紙飛行機が2個飛んできました。授業中で驚いたけど、すごく嬉しくてノートをちぎった紙で鶴を折ってお返しをあげました。また二人、友達ができて楽しかったです。放課後は理科の先生に蛇も触らせてもらいました。学校で、人生で初めて蛇に触りました。これも楽しい思い出の一つです。夜にはおばけの衣装をし

て友達と一緒に近所をまわり、お菓子を袋いっぱいに貰いました。私がお店でお菓子を買おうとしたとき、Abigail が「買わなくても大丈夫」と言っていた理由がわかりました。また、「trick or treat!」を実際につかえ、それがまた不思議な感じがして面白かったです。色々あったけど、本場のハロウィンの規模の大きさに、終始感心していました。そして最終日はノックスビルの観光をたくさんしました。ノックスビルのシンボルのタワーに登ったり、買い物をしたり、テネシー大学を見に行きました。楽しさはあったものの、だからこそ寂しさも大きく複雑な気持ちでした。帰国する日は感謝と寂しさで胸が張り裂けそうでした。必ずまた会うことを約束して、私は帰国しました。行く前の私には考えられないほど、あっという間でした。

今回の事業で私は貴重な体験をさせていただきただけでなく、大切な友人との沢山の思い出を作ることができました。本当にありがとうございました。



サンスフィアの前でホストファミリーと（本人は右）



ホームステイの思い出

桜蘭中学校 小美浪 颯士

ホストファミリーと対面する直前のバスの中は、みんな緊張でシーンと静まり返っていました。私も、ただただ「うまく話せるかな」という不安でいっぱいでした。ホストファミリーのSerena家は、ホストチューデントのJonathanと弟2人、両親の5人家族で、みんな私のカタコトの英語を真剣に聞いてくれて、徐々に緊張はほぐれていきました。私がアメリカに行く前から、メールやLINEで何度も連絡をくれて、どこに行きたいのか、何がしたいのか聞いてくれたのもありがたかったです。

ホストファミリーとの生活で印象に残ったものの1つ目は、ハロウィンです。ハロウィンの日の昼、街を歩いていると仮装している人があちこちにいたり、スターバックスの店員さんも仮装していたりと、日本とは規模が明らかに違うことが昼間から分かりました。私もスケルトンの仮装を買ってもらい、初めてハイクオリティな仮装をすることになり、心が踊っていました。夜になると、Jonathanと近所をまわり、お菓子をもらいにいきました。最終的には「日本に持って帰れるかな」と不安になるほどの量のお菓子をもらい、流石アメリカだなと改めて感じました。

2つ目は、昔日本に1年間滞在していたというJonathanのおじいさんの家に行ったことです。そこでは、おじいさんが持っていたゴーカートを運転させてもらえることになりました。日本とは違う右側通行に苦戦しましたが、面白い思い出となりました。夕食をみんなでとった後は、おじいさんに英語を覚えてもらい、私は日本語を覚えて、楽しく会話をしました。帰る

時には、テネシー州のロゴ入り帽子をプレゼントしてもらいました。

3つ目は、ホームステイ中の食事です。ある日の朝食はレストランに連れて行ってもらい、フライドチキンにアメリカ南部で有名なsawmill gravyをかけたもの、ビスケット、fried applesなどを食べました。食べたことのない料理ばかりでしたが、どれも本当に美味しく、あつと言う間に食べきりました。

今回の貴重な経験・ホストファミリーとの縁を無駄にすることなく、これからも大事にしていきたいと思っています。また、Jonathanは「いつか日本に行きたい」と言っていたため、室蘭に来る機会があればぜひ我が家で受け入れたいです。この事業に関わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



Jonathanとテネシー大学にて（左が筆者）



ホームステイの思い出

桜蘭中学校 中田 莉央

私は初めてホストファミリーと対面する動物園に近づくにつれ、不安と緊張で頭の中がいっぱいになりました。そして動物園に着き、バスから外を見ると、私のホストファミリーのEdenが「Welcome Rio!」と書かれたウェルカムボードを持って待っていました。バスから降りてEdenのところに行くとEdenは私ができるように話しかけてくれて、私の中で緊張が少しずつほぐれていきました。

3日目のシダーブラフ中学校訪問では私たちのパフォーマンスに対して生徒たちが盛り上がり歓迎してくれました。廊下ですれ違ったときにサインや握手、ハイタッチを求めてきて生徒一人ひとりがフレンドリーなことにとっても驚きました。

次の日はノックスビルの観光に連れて行ってくれました。おみやげ選びでは私の英語を最後まで聞いてくれて私の希望にあったものをみんなで探してくれたり、ノックスビルのTシャツをプレゼントしてくれて嬉しかったです。また、私がダンスを習っていることを伝えると、「一緒に踊ろう!」と音楽を流して踊ってくれたり私のダンスに対して「Go Rio!Go Rio!」と声をかけてくれて明るい雰囲気を作ってくれてとても楽しむことができました。

最終日の夜はハロウィンでした。用意してくれた仮装を着て、「Trick or Treat!」と言いながらお菓子をもらいに近所の家を回りました。日本にはない

文化を体験できて新鮮で楽しかったですが、その日の夜、寝る前にEdenとハグをした時これが最後の夜なんだ、という実感とともにまだ帰りたくないという思いが自分の中で大きくなり悲しくなりました。

そしていよいよお別れの日がやってきました。私は家族一人ひとりに感謝の気持ちを手紙にまとめて渡しました。お別れはとても悲しかったけれどホストファミリーも泣いてくれて嬉しかったし、ホームステイが楽しかったと改めて感じることができました。また、Edenが「来年室蘭にいきたい」といってくれて嬉しかったです。

私は今回の派遣でいくつもの貴重な体験をすることができました。この派遣に関わってくれた皆さん、家族、このような機会をくださりありがとうございました。



ホストファミリーとレストランで（左側が筆者）



ホームステイの思い出

桜蘭中学校 本藤 慎之典

ノックスビルに行く前はとても緊張していて、不安でいっぱいでした。なぜなら、ホストチューデントの Micah とメールでのやり取りを始めたのが他の人よりも遅くなってしまったからです。慣れない英語でのやり取りはとても難しく、返信にも時間がかかり、あまりたくさんやり取りすることはできませんでした。

ホストファミリーと最初に対面したのは動物園でした。ホストファミリーは、自分が英語を聞き取れなさそうにしていたら、ゆっくり話してくれたり、難しい単語は翻訳機を使って意味を教えてくださいたくさん気遣ってくれたので本当に有り難かったです。おかげで不安や緊張が和らぎ、すぐに馴染むことができました。

二日目にはショッピングモールに行きました。お土産も買いましたが、一番印象に残ったのは、Micah と一緒に斧投げをしたことです。それは、斧をボードに向かって投げて的当てをするゲームでした。最初はボードにうまく斧がささらなかったり、変なところに斧が跳んでいってしまって難しかったです。でも、初めてうまく投げることができたときには皆で盛り上がったし、後半はコツが掴めてきたのでとてもいい思い出になりました。

三日目には Micah が通っているシダーブラフ中学校に行きました。そこで行った歓迎会でのパフォーマンスはとても盛り上がりました。終わったあとには「とても良かったよ。」と言ってくれたので、みんなで準備してきた良かったなと嬉しい気持ちになりました。その後には給食を図書室に集まって食べたり、授業の見学をしたりしました。家に戻ると家族でカボチャを

ほって、ジャック・オー・ランタンを作りました。わからないところがたくさんあったけれども、Micah に教えてもらったおかげで完成させることができました。初めての経験だったのでとても新鮮でした。

四日目は午前中は友達とそのホストチューデントと一緒にノックスビルの色々な場所に行き、買い物をしたり観光したりしました。途中で他の友達とも合流しました。この日はハロウィーンだったので五時くらいから、皆と一緒にお菓子を集めはじめました。みんな仮装していて家の飾り付けも凝っていて日本ではなかなか見られない光景でした。とても楽しかったです。

最後の日、お別れするときはとても寂しかったです。Micah とハグしたときには、お別れを実感して目が潤みました。日本に行きたいと言われて、ノックスビルで Micah と過ごせて良かったと改めて思いました。最後に、この研修を支えてくださった皆さん、ホストファミリーの方々、本当にありがとうございました。



Micah と斧投げをした時の写真



ホームステイの思い出

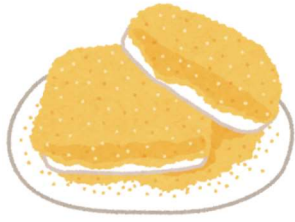
港北中学校 馬場 一輝

僕はアメリカに行くまでホストファミリーとの連絡が少なく不安でしたがホストチューデントから前日に「あなたの訪問を楽しみに待っています」と連絡があり安心した気持ちでアメリカに向きました。アメリカに入国し2日後、ホストファミリーと待ち合わせ場所の動物園で、日本語で「いき」と書いてあるボードを持ってきているホストファミリーを見つけ僕はバスから降り駆けつけました。最初はお互い緊張していてうまく言葉も伝えることができなかつたけどジェスチャーや表情で少しずつコミュニケーションを取り時間とともに緊張もほぐれていきました。動物園で過ごしたあとホストファミリーと買い物に行きました。食べ物やハロウィンの衣装を買ったりしました。夜ご飯は手作りのハンバーガーでとても美味しかったです。夜は日本から持っていったお土産を家族みんなが喜んでくれました。英語で家族のみならずと会話を楽しんだり日本語の発音の言い方を伝えたりしながら過ごしました。次の日は遊園地に連れて行ってもらいました、ホストファミリーのローガンと何回もジェットコースターに乗りました。次の日、シダーブラフ中学校に行きました、学校はとても大きく沢山の生徒がいました。知らない僕にも生徒のみんなが「HI！ IKKI」と声をかけてくれました。事前に準備をしていたラジオ体操を披露

し、その後は図書室でご飯を食べたり授業を受けました。ローガンがずっと近くにいてくれてわからないことなどを教えてくれて心強かったです。次の日はゴルフに連れて行ってもらいゴルフのあとはアメリカで定番のスポーツショップに連れて行ってもらいました。野球のグローブのデザインはとてもカッコ良かったです。夜はハロウィンだったためローガン達と仮装をしてお菓子をもらったりしにいきました。日本のハロウィンと違ってとても楽しかったです。そしてあっという間に日本に帰る日がきてしまいました。ローガンの家族は僕のことを家族のように接してくれて本当に感謝しかありません。日本に帰ってきてからもローガンとは連絡を取り合っていてまたいつかローガンに会いにアメリカに行きたいと思っているし、ぜひ日本にも来てほしいなと思います。最後に僕に貴重な経験をさせてくれたこと、機会を与えてくれた方々、本当にありがとうございました。



ゴルフ場でホストファミリーと（本人は右）



ホームステイの思い出

本室蘭中学校 飯田 樹汰

この派遣で人見知りである僕の目標は、たくさんの人とコミュニケーションをとることでした。ホストファミリーとの対面はなによりの楽しみでした。

しかし、いざ対面すると心臓が激しく鳴り、頭が真っ白になり用意していた言葉が頭から消えました。なかなか言葉を発せずにいると、ホストファミリーが優しく話しかけてくれ、緊張も和らいでいき、少しずつコミュニケーションが取れるようになりました。

次の日、アメリカの人気観光スポットであるスモーキーマウンテンに行きました。スモーキーマウンテンの麓から頂上まではロープウェイで移動するのですが、日本のロープウェイとは違い途中でガツタンと揺れ、ジェットコースターみたいでスリル満点でした。落ちるのではないかと焦る僕の横で周りのみんなはFoo!と声を上げ楽しんでおり衝撃を受けました。そこから見た景色は紅葉もあり、建物の雰囲気は全然違うけどなんとなく日本を思い出しました。

ハロウィンの日には、ホストスチューデントのAlexと派遣生徒でたくさんの方に訪問し、お菓子をもらいました。ほとんどの家がハロウィンの装飾をしていて、くり抜いたカボチャがあったり、僕の2倍くらいの大きさの、魔女のオブジェがあったりしました。特にすごいと思ったのは、等身大の骸骨が一軒の家の庭に数十体でお茶会をしていたり、麦わら帽子を被って掃除をしていたりしている装飾で、今にも動き出しそうでした。夜遅くまで友人といることや、目に入る風景が非現実的なものばかりで、おとぎ話の中に入ってしまったかのように感じまし

た。規模は違えど、装飾をしたり、お菓子をもらいに近所を訪問して回るところは、北海道の七夕に少し似ているなとも思いました。

それから、ホストファミリーに日本の文化を伝えたいと考えていたので、きな粉もちの材料と箸を持参し、披露しました。アメリカには箸の文化が無いので、使うことが難しいと思っていましたが…ホストファザー、マザー共にすごく上手に使っていて驚きました。Alexは、少し大変そうにしていたのですが、「これは好きな味」と、言ってくれたので嬉しく思いました。

帰省後も、Alexと連絡を取り、オンラインでゲームを一緒にする約束をしています。僕の目標である「たくさんの人とコミュニケーションをとる」という事も達成でき、楽しく充実した経験ができました。

最後に、沢山の貴重な経験をさせて頂き、この事業に関わって下さった室蘭市の方々、本当にありがとうございました。



ハロウィンの日にホストファミリーと（本人は左）

